

成 果 報 告 書

【H30 年度教育改革推進事業経費】

所属部局	COC+推進室	代表者氏名	田代優秋
事項名	トランスファラブル・スキルの修得を目的とした「起業実践学」プログラムの開発		
当初計画に対する目標達成率	85 %	事業の終了時期	平成 31 年 3 月
予算配分総額	664,000 円	経費使用総額	642,685 円

【事業の成果】※具体的に記入してください。

- ・ 在学中もしくは卒業3～5年後に起業を目指し活動している学生（以下、起業希望学生）が、平成31年3月末時点で50名見出された。
- ・ 起業希望学生の中におおよそ3つの階層、すなわち1）ビジネスプランを持ち自ら積極的に活動を進める学生、2）ビジネスプランはなく好きなことややりたいことを探しながら活動する学生、3）起業に漠然として興味や憧れだけで主体的な行動に乏しい学生があることがわかった。
- ・ 3つの学生層に応じたワークシートの開発・試行ができた。

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

- ・ 3つの学生層に応じたワークシートの開発、とくにトランスファラブル・スキルに相当する「やりたいことの探し方」「アイデアの発想法・思考法」などを提示できたが、ビジネスプランの立て方や事業計画書の書き方については十分な検討ができなかった。
- ・ 学内の教職員、学外からの起業支援者らを交えて、起業支援プログラムのさらなるブラッシュアップについての意見交換が十分にできなかった。
- ・ 起業希望学生による学外ビジネスプランコンテストで受賞実績が4件あり、柑芦会から試作のためのご支援を頂けたが、その他の団体などから起業支援金（投資など）の獲得までには至らなかった。

【今後の展望等】

○本事業の発展性

和歌山大学における学生への起業支援は、平成29年度から学生の掘り起こし、平成30年度に本格化された。さらに、起業希望学生の活動場所としてオープンイノベーションラボが平成30年10月から試験的に運用を開始した。この結果、起業希望学生が50名見出され、わずか1年足らずで学外のビジネスプランコンテストで4件の受賞実績をあげることができた。

こうした実績から、学外の起業支援者らから注目を受け、これまで得られなかった学生教育への参画に発展した。例えば、民間の起業支援者らが主催するイベントやコンテストへの優先的な参加（参加費の免除など）や告知（個別の説明会開催）など、さらに東京に本社を置くベンチャー企業や上場企業から学生向けのセミナーの開催など直接支援を頂戴している。今後は、学生教育への参加企業を増やすことで、共同した事業創出や学生起業家の輩出のための体制づくりが進むものと考えられる。

○改善すべき事項

学外からの起業支援が充実しつつある中で、地元起業からとの連携体制、県内の起業支援者らとのコンソーシアムの構築に注力すべき点がある。起業希望学生の中から実施に起業に至る学生は、やはり一部である。起業しなかった学生であっても主体性のある学生やアントレプレナーとして活躍できる学生であり、地元企業と早い段階から連携することで人材確保につながる可能性がある。また、和歌山大学が中心となってアントレプレナーの卵を見出すことができるようになったため、県内の起業支援者らと積極的に連携することでより高い育成プログラムの開発、より専門的な支援の機会をつくるためにコンソーシアム構築が必要となる。

○大型の競争的資金等（COE、GP等）への申請実績及び今後の予定

学外の起業支援者らとの連携が徐々に進みつつあるが、まだ競争的資金の獲得までには至っていない。今後は、実務面での連携だけではなく、コンソーシアム構築に向けた資金獲得にも挑戦したい。また、起業希望学生の活動拠点には、学外の民間企業から学生との交流依頼が多い。さらに、和歌山県出身の他大学生で起業を希望する学生が、本学生と交流している機会がある。こうした和歌山県や南大阪地域の起業希望学生にとっても活動拠点としてニーズがある。こうした新しい動きをとらえつつ、競争的資金だけでなく安定的なファンド設立の可能性についても検討していきたい。

○その他特筆すべき事項

特になし